

11.5.18

大抵の如く念のれ 本村修善寺に他少敷の宗門者  
 付例にすし 世よりから七の唱し 聖河由良長岡  
 成志身の人道 主長と送うたし 外能家孝に  
 静動りしと 河原の陸動力よりりる  
 清入川刷子組合の復生運動  
 么多ルに正 旧長長七の 清入川刷子組合は 是般  
 旧長長の神位と共に 諸君の 忠告を以て 道徳  
 復生身と 清入川 金吾 復生身 助産士 七の  
 結果 諸君の 復生身 旧長長に 奉還 復生身  
 政人と 奉還せし

神代の傍御界 (右正十一年九月廿七)

今や神代の傍御界は未嘗存の沈黙状態にあり、即ち  
 此界の宗師を以て 宗師の正位は 宗師組合 権威の方  
 針を露骨に 掲げ 且つ財界の不景気の ため 忠告の 宗  
 威を蒙り 宗師組合 運命は正に 崩壊寸前とす 此状態  
 陥入り也

最近の宗師組合員数 (五月十日現在)

◎ 神代造船所組合 数不明

川村の妻(向造船所)の職を以て 組織に 戻らざる  
 か 味多政人と 組合員 宗師の 状態に あり  
 ◎ 神代鍛冶組合 三十五名

11.5.18  
 H  
 11.5.18 昭和  
 84

最近の  
 宗師組合  
 員数